

「胃切除術における切除胃の形状と術後残胃機能障害に関する後ろ向き研究」**1. 研究の対象**

2010年1月～2020年12月に当院で胃切除術を受けられた方

2. 研究目的・方法

胃癌に対する術式は、がんの根治性のみならず術後機能温存の観点からも様々な工夫がなされてきました。特に最近では、腹腔鏡を用いた低侵襲手術やセンチネルリンパ節郭清術・幽門温存胃切除術などの縮小手術も登場し、胃切除術後の逆流や胃内容停滞を改善すべくさまざまな術式が開発されています。しかしながら、現在でも残渣貯留や通過障害、残胃炎など様々な後遺症が報告されています。そこで、胃切除術で切除した胃の形状を解析し、術後の後遺症との関連を検討しました。2010年1月～2020年12月までの間、当科で施行した胃切除術症例(幽門温存胃切除術・局所切除術・幽門側胃切除術)を対象とし、このうち、病理標本が大弯切開され、病理写真が評価可能で、かつ術後1年目の内視鏡検査を施行した症例を対象とし、病理標本写真から切除胃の面積・切除胃の大弯町・小弯長を計測しました。また、体重および栄養学的指標について、問診・血液検査より解析し、術後1年目の内視鏡検査画像よりRGB分類に基づいた残胃機能評価を行い、残胃機能と切除胃の形状との相関について検討を行いました。

研究期間：学校長承認後～2022年(令和4年)12月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：手術情報、手術で摘出した組織の写真、入院経過、術後経過、術後検査結果、カルテ情報、等。すべて匿名化した後使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

防衛医科大学校 外科学講座

氏名:菅澤 英一

資料 3

〒359-0042 埼玉県所沢市並木 3-2
電話:04-2995-1211(代表)